

We Love 丹沢

ほ ぜん さい せい
保全と再生をめざして

たんざわ おおやま そうごう ちょうさ
丹沢大山総合調査ニュースレター 第1号 2004年12月



「テンニンソウの堂平」 (写真：横浜市・川端 白人 平成16年9月24日撮影)

2004年4月に始まった『丹沢大山総合調査』をみなさんは知っていますか？この調査では、様々な分野の機関・団体・個人がパートナーシップにより、丹沢大山が抱える様々な環境問題の解決に取り組んでいます。ここでは、調査に参加している方々の現場の声、そして丹沢大山を愛する人たちの声を取り入れながら、調査についてお知らせします。

自然との共生。自然だから自然のままにおくといういい分は一見正しいようですが、人間が保護をしてこそ自然は育まれます。
(横浜市・孔人)

私は清川村宮ヶ瀬に生まれ、恵まれた自然の中で育ち感謝しています。丹沢の荒廃再生で大事な自然を守りたい。
(厚木市・川瀬 亮)

丹沢・大山をはじめとする緑と水を守る事が、ふる里、神奈川の環境を良くすることになります。
(横浜市・芝 玄空)

みんなの声 ~人材バンクご登録の方々から~

丹沢調査に初めて参加し、山の緑・野生動物発見・空気のおいしさ等、自然豊かな山を体験し、汚れ無き山を愛して行こうと思いました。
(横浜市・百瀬 正勝)

丹沢とは、自分が子供の頃からの付き合いだ。結婚し、子供を連れて丹沢によく登った。今度は子供が、親子で丹沢に遊ぶ日が楽しみである。
(横浜市・川端 白人)

水源、山火事抑制、土砂崩れと動植物保護のための植林。スギ、ヒノキの植林の間に雑木のケヤキとシイを植林すると下草も生える。根も大きく張る。
(平塚市・柏木 ひとし)

【協賛】 サントリー(株)/トヨタウエイズグループ/(NPO法人)丹沢自然保護協会/東京電力(株)/
(株)有隣堂/相模鉄道(株)/小田急電鉄(株)/神奈川県農業協同組合中央会/IBS石井スポーツ(株)/
神奈川中央交通(株)/(株)カモシカスポーツ/(株)コージツ/(財)神奈川県公園協会/
(財)かながわトラストみどり財団/(財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団/神奈川県治山林道協会/神奈川県
丹沢大山総合調査の趣旨を理解し、資金面のご協力をしてくださる企業・団体・個人を募集しております。
みなさんのご協力をお待ちしております。

●●●●● せんもんてき 専門的な調査 ●●●●●

丹沢大山総合調査では、生きもの再生調査チーム、水と土再生調査チーム、地域再生調査チーム、情報整備調査チームという4つの専門的なチームにわかれて調査を行っています。今回は、生きもの再生調査チームと水と土再生調査チームの調査員の方々から、どんな調査を行っているのかを報告していただきました。

●●●●● **生きもの再生調査チーム（維管束植物グループ）** ●●●●●

9月も下旬になると丹沢では秋の気配を感じるようになる。春に始まった維管束植物(*1)グループの調査もいよいよ大詰めだ。

今日の調査地は札掛モニタリングエリア内の人工林。人工林といってもそれがスギ林なのかヒノキ林なのか、若齢林なのか壮齢林なのかによって形成される環境は違って来る。それぞれの条件下にどのような植物種が存在しているのか、その量はどうか、人工林での植物種多様性の現状を評価することが本日の調査目的のひとつだ。今日は休日だけあって参加メンバーも多い。リーダーを筆頭に植生調査の超ベテランからビギナーまで年齢層もバラエティーに富む。みんな植物が大好きで、丹沢の自然に少しでも



貢献できたらという熱意の下、団結している。これで何度目の調査になるだろうか。調査手順は手慣れたものだ。10×50mの調査区を5×5mに区切って、それぞれ2×2m枠内の植物種を同定(*2)していく（写真）。ベテランがビギナーに指導しつつ、調査はテキパキかつ和やかに進められる。地道な作業ではあるが充実感がたまらない。（文：中西 のり子）

(*1)維管束植物とは？... 維管束植物という難しく考えてしまいがちだが、簡単に言えば普通に私たちが目にする草や木のこと。

シダ植物と種子植物に分けられる。キノコやコケなどは維管束植物ではない。

(*2)同定とは？... 生物の分類学上の所属・名称を明らかにすること。この調査の場合、植物の名前を明らかにすること。

●●●●● **水と土再生調査チーム** ●●●●●



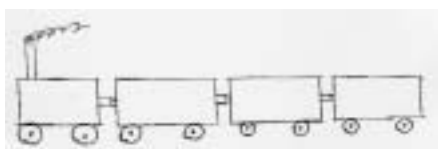
東丹沢の堂平地区では、シカの採食により、森林の中に草やササ（林床植生）の生えていない地域が広がっています。ここに試験斜面をつくり、降雨が土壌を削った量（土壌浸食量）を1～2週間毎に、また地表面を流れた水の量（地表面流出量）を1～2分毎に測り、採食との関係を調べています。林床植生がほとんどない斜面では、今年7月からの約3ヶ月間で、平均して深さ約4mmの土壌が浸食されたことがわかり、影響の大きさが確かめられました。写真は幅2m、長さ5mの試験斜面。下部の水槽に溜まった土砂や水、落ち葉の量を測定します。

（文・写真：若原 妙子）

イラスト＆写真コーナー

～人材バンクにご登録の方々から～

しょうわしよき 昭和初期・丹沢の木材運搬用の
『トロッコ車』（平塚市・柏木 四郎）



うつ おおやまでら こうよう
『朝日に写る大山寺の紅葉』
（座間市・黒澤 和市）



ちょうさじ 調査時に見つけた1コマ
調査時に見つけた1コマ
～大倉尾根線にて～
『リスの木登り』（横浜市・百瀬 正勝）

●●●公募型調査●●●

公募型調査とは、みなさんから調査のアイデアを募集し、丹沢大山総合調査実行委員会により選ばれた調査をいいます。公募型調査には4つの調査がありますが、今回はその中から以下の2つの調査を紹介します。

●●●丹沢ブナ党 ～ブナ林健康度調査～

私たちは「丹沢ブナ党」という自然保護団体です。ブナの立ち枯れの原因調査や必要のない林道工事などの問題解決のため、行政との話し合い、シンポジウム、学習会の開催、丹沢を歩くイベントの実施などの活動を行っています。この調査は、直径30cm以上のブナの健康度を最も健康な場合を5、完全に立ち枯れている場合を0として、6段階評価するものです。ブナ林の健康度の経年的な推移を確認し、風向きや地形との関連で立ち枯れの原因を探ることが目的です。今回が3回目の調査であり、公募で参加いただいた方と一緒に歩きながら、丹沢の現状を見ていただくことは、丹沢を守るためにとても大きな意義があることと考えています。(文・写真：丹沢ブナ党 梶谷 敏夫)

*写真は調査のためブナを見上げて健康度を評価している様子。



●●●エヌピーオーほうじん NPO法人 みろく山の会 ～ゴミの実態調査～



使用時のティッシュ)の持ち帰りを呼びかけるキャンペーンをあわせて行いました。

(文・写真：NPO法人 みろく山の会 有川 百合子) *写真は平成16年10月24日に行われた清掃登山の様子。

「みろく山の会」は会創立時から22年間、清掃登山を行ってきました。最近では登山者のマナーもよくなり、登山道ではあまりゴミを見かけなくなりました。ところが丹沢には昔のゴミが大量に堆積している場所があるとわかり、みんなで丹沢を歩き、どこにどのくらいの量のゴミがあるのか？ゴミマップを作成し、ゴミマップに基づいて大量堆積ゴミの大掛かりな撤去作業を7年前から始めました。みろく山の会がこの22年間で丹沢からおろしたゴミの量は20トン以上になります。山に車道はなく、人が歩く登山道があるだけです。もちろんゴミ回収車は来ません。山のゴミは人の手で拾い、人の力でおろすより方法がありません。今年も私たちは、清掃活動と同時にゴミ持ち帰り落とし紙(トイレ

●●●活動レポート●●● 丹沢ブナ党のブナ林健康度調査に参加してきました！

「おはようございます！」平成16年10月11日、午前7時20分、スタッフを含め11名、みんな元気よくJR御殿場線駿河小山駅に集合した。人材バンク(*3)からは4名の参加があった。今回は三国山から湯船山へと歩く。調査方法の説明と自己紹介が行われ、午前8時20分調査開始。歩き始めてすぐに「この木はブナですか?」「そうですよ。」という会話が聞こえた。みんな歩きながら周囲を見回した。雨上がりのブナはなんと美しく幻想的なのか…。調査ではブナをよく観察して、健康度を0～5の6段階で評価した。0は枯死で、数字が大きくなるほど元気である。ブナの前で「健康度はどうですか?」とスタッフに聞かれると、初めは小さな声で遠慮がちに答えていた参加者たちだったが、最後の頃には堂々と大きな声で「これは5ね。」「これは3かしら?」などみんな一緒に評価を付けていた。大きなブナは太さを測り、その太さから樹齢を計算する(写真右上)。「えっ!300歳??」思わず頭が下がる。ブナが枯れていればみんなの胸が痛み、元気であれば笑みがこぼれた。調査では他の生きものにも目を向け、熱心に観察していた。調査に参加してみて「楽しかった!」「ブナをより身近に感じるようになった。」という声があった。予定よりも長い距離を歩いたにもかかわらず、みんなとても清々しい顔で解散した。(リポーター：広報県民参加部会 横浜事務局 村上 美奈子)(*3)人材バンク...裏面にてご案内。



丹沢大山で見られる生きもの



サガミジョウロウホトトギス（ユリ科）

世界中探しても丹沢でしか見つからない種類（丹沢固有の種類）。一生懸命に登らなくてはいけないような、標高の高い所にある岩壁に生えている。数が少ない上に盗掘されることもあるので、詳しい生育場所は公開されていない。8～9月、黄色い花を下向きに咲かせる。

（文・写真：青木 雄司）

*** ニュースレターに関するお問い合わせ ***

【発行元】

丹沢大山総合調査実行委員会 広報県民参加部会

【お問い合わせ】

丹沢大山総合調査実行委員会 広報県民参加部会
 横浜事務局（神奈川県環境農政部緑政課自然公園班内）
 〒231 - 8588（住所不要）
 TEL：045(210)4315
 FAX：045(210)8848
 e-mail：szkoen.258@pref.kanagawa.jp
 URL：http://www.minnano-tanzawa.net

このニュースレターの原稿は、人材バンクスタッフや調査団スタッフなど、丹沢大山総合調査に関わる様々な人たちにより作成されています。

平成17年度は、「公募型調査」～子ども部門～に参加してくれる小中高生を募集予定です。お楽しみに！！

お待ちしております！

ニュースレターに関するご意見や、ご感想をお問い合わせ先までお寄せください。また、丹沢大山にまつわる楽しい体験談も募集中です。みなさんの声をお待ちしています！

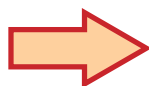
【表紙の写真】テンニンソウは、春先や秋にシカに食べられますが、あまり好まれない植物のようです。そのため、他の植物が食べられ、テンニンソウだけが残った風景がみられます。



丹沢大山総合調査人材バンクに登録しませんか？
 人材バンクでは、ご登録いただいた方に調査・その他活動に関する情報を随時お届けしております。

大募集中！

ボランティア
申し込み



人材バンク
登録

派遣



依頼

- ・専門的な調査
- ・県民参加型の調査
- ・公募型調査
- ・実行委員会への協力

【お申込方法】申し込み票をお送り致しますので、以下の申し込み先までご連絡ください。

【お申込先】広報県民参加部会 横浜事務局 TEL：045(210)4315

e-mail：szkoen.258@pref.kanagawa.jp



カモシカの親子

シカのように道端や山頂などをウロウロしていることはまずないが、カモシカも意外と身近に棲んでいて、民家や林道のそばの崖地付近で休んでいる姿が見られることも珍しくない。だが、人を見てもシカのように鳴いたり、あわてて逃げだしたりすることがなく、じっとしていることが多い。実はけっこう出合っているのだが、こちらは気づかずに通り過ぎていることがよくあるようだ。カモシカの方がわれわれよりも先に気配を感じとり、人の行動を観察しているのだろう。

（文・写真 山口 喜盛）

*** 「丹沢大山保全・再生セミナー」のお知らせ ***

総合調査に関わる方々の情報交換・情報共有のため、そして、より多くの方に調査の内容を知っていただくために、毎月第3金曜日に「丹沢大山保全・再生セミナー」を開催してまいりました。お陰様で第6回を迎えることとなりました。

みなさんの参加をお待ちしておりますので、どうぞお気軽にご参加ください！

<第6回> 平成17年1月21日（金）18：30～20：30
 かながわ県民サポートセンター3F 301号会議室

【お問い合わせ・お申し込み】

丹沢大山総合調査実行委員会 厚木事務局

（神奈川県自然環境保全センター内）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢657

TEL・FAX：046(248)0992（直通）

e-mail：sougou02@agri.pref.kanagawa.jp または
 sizenkankyo.1644.kj@pref.kanagawa.jp